

## 総合心療センター デイケアパティオ

室長 川渕 忠義

### はじめに

令和5年(2023年)は、ここ数年、COVID-19への対応に注力するがあまり自粛や制限といった消極的な運営をせざるを得ず、総利用者数は大きく落ち込んでいたが、5月よりCOVID-19が5類へ移行となったことで、これまでの閉塞感は薄れ、幾分かは前向きな運営ができた一年であった。入所する利用者の背景もまた社会情勢の影響を受けやすく、COVID-19の対応が落ちていくなか、メンタルヘルスの不調者が一定数増加したように思われる。このように復職支援のニーズは年々高まっている様相ではあるが、経営状況については依然、厳しい状況が続いており、これまで以上に質の高い治療、復職支援の実践を意識した一年であった。

### 運営状況

運営体制は、昨年配属となった看護師1名が4月に病棟へ異動。代わってベテラン看護師1名が配属となり、管理者(作業療法士)1名、公認心理師1名の計3名で新年度のスタートをきった。ベテラン看護師については、精神科認定看護師の資格を有し、これまでに精神科急性期病棟、慢性期病棟、看護管理者としての経験、加えて一般科での病棟管理、リエゾンナースとしての役割など豊富な経験をもつ看護師が配属となった。そのほかのスタッフも臨床歴は長くベテランスタッフによる少数精鋭の新体制ではあったが、充実した運営、治療の質の確保、加えて利用者増への取り組みをおこなう上では十分とはいえず、今後はスタッフ個々の負担軽減や働きやすい職場環境づくりを重視した取り組みに着手していきたい。次年度に向けてはコロナ禍前のような入退所者数を目標にチーム全体の体力をつけ、活気ある運営を心掛けていきたい。

### 実績

活動実績としては(グラフ1)に示すように、年間入所者数32名、年間退所者数38名であった。入所者数は昨年とほぼ同等で横這い状態であった。次年度は消極的な運営から脱却し入所者数の増加に向け、他院やクリニック、新規の事業場の開拓とこれまでに利用していただいたことのある事業場との連携強化を図っていきたい。また一日平均通所者数についても昨年と大きな変化はみられず、いまだ当施設の利用歴のない事業場や休職者へのアプローチを積極的におこない、受け入れ強化を図っていきたい。

次に入所した利用者の紹介元(グラフ2)については、他院・クリニックからの紹介が最も多く8割近くを占めている。今後も他院、クリニックの期待に沿えるよう信頼関係の構築、連携強化を図っていきたい。一方、当院外来からの紹介は2割未満となっており、新患の受け入れ制限の煽りを受けた形となっている。また入院に至っては年間1割も満たない状況が続いている。理由としては、当院へ入院する患者層と当施設の利用者層との乖離がますます広がっていることが影響していると思われる。ただ、今年度は医師が増員されたことで今後、当院外来、入院との連携強化を積極的に図り、利用者増へ向けて期待がもてる要素といえる。

職種別(グラフ3)については、公務員が約7割、会社員が3割近くを占め、再就職を目指す無職の方が0.5割という昨年と同等の結果であった。今後も事業場との連携強化はもちろん、スムーズな職場復帰を支援していきたいと考える。再就職については、復職者と同じリハビリ環境のもと、可能な限り、早期の就労に向けて治療環境の整備、ハローワークや障害者職業センターなど就労支援機関との連携強化を図っていきたい。

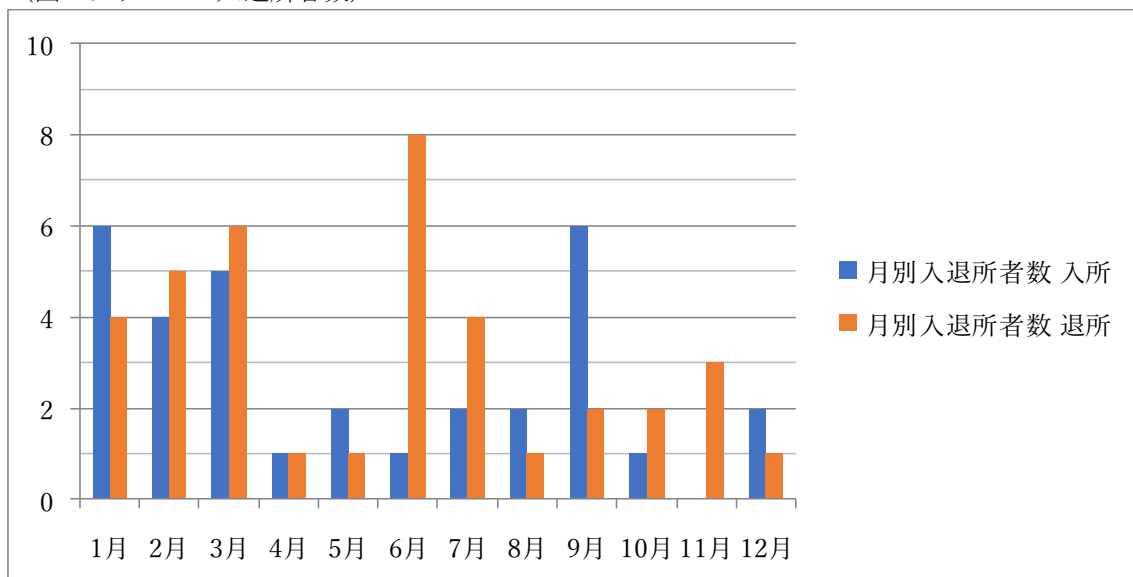
疾患別(グラフ4)の内訳としては、例年とほぼ変わりはなく、軽症のうつ病群を含めたうつ病層が多く、次いでその他に分類している適応障害、ASDが3割程度となっている。利用者の平均年齢については38.3歳と昨年と同等の結果である。また入所から退所までの在籍期間

(グラフ 5) については、半年から一年未満が最も多く、つぎに半年未満であった。事業場の休職期間との兼ね合いはあるが、治療やリハビリ効果を実感するためには一定期間の通所は必要であることを裏付ける結果といえる。

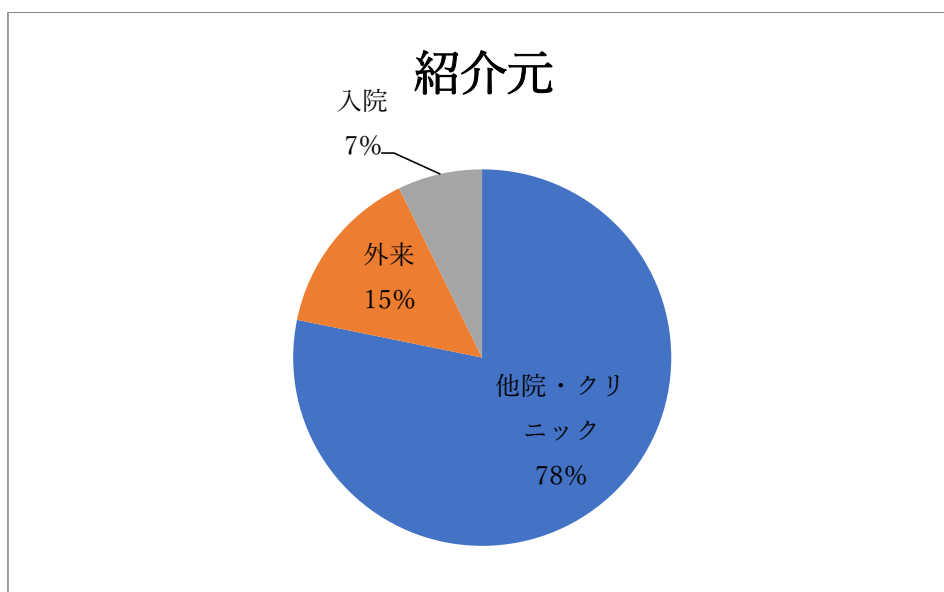
### おわりに

次年度に向け、冒頭でも触れたがコロナ禍前の環境に近づくべく、安定した運営を目標に能力の高い人員の確保とチーム全体の守備範囲の拡大を図り、治療の質の向上に努めたい。また地域や事業場に必要とされる施設、信頼される施設を目指し、復職支援の実践を図っていきたい。

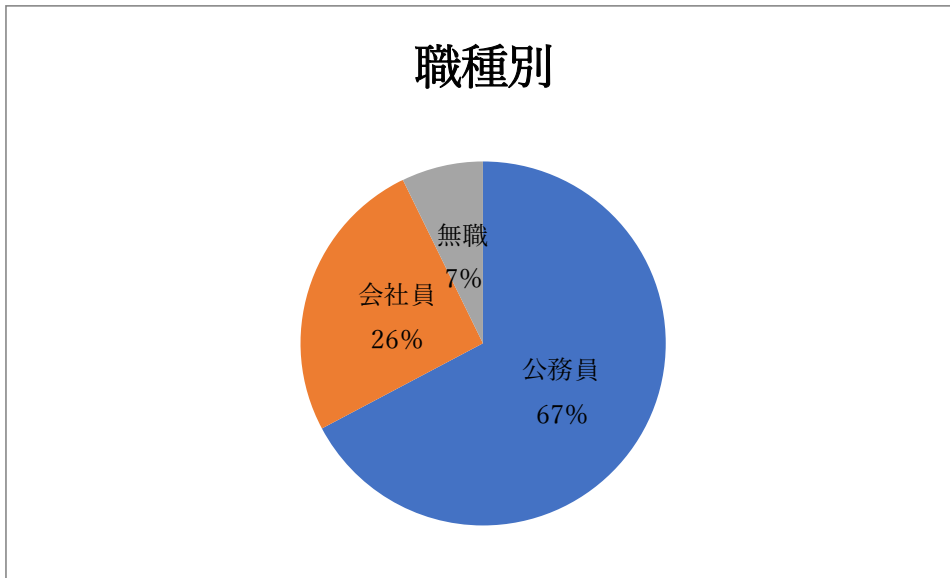
(図・グラフ 1 入退所者数)



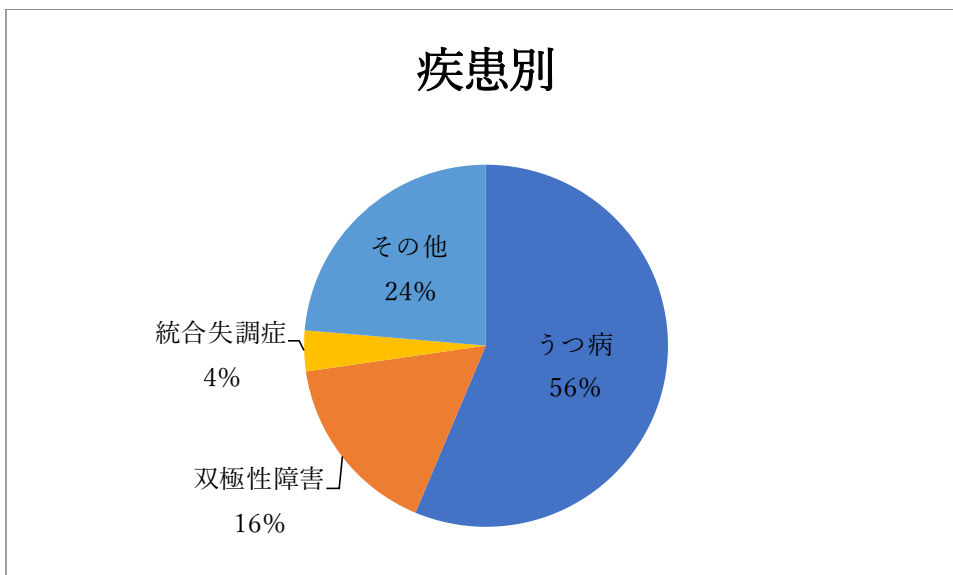
(グラフ 2 紹介元)



(グラフ 3 職種別)



(グラフ 4 疾患別)



(グラフ 5 在籍日数)

